

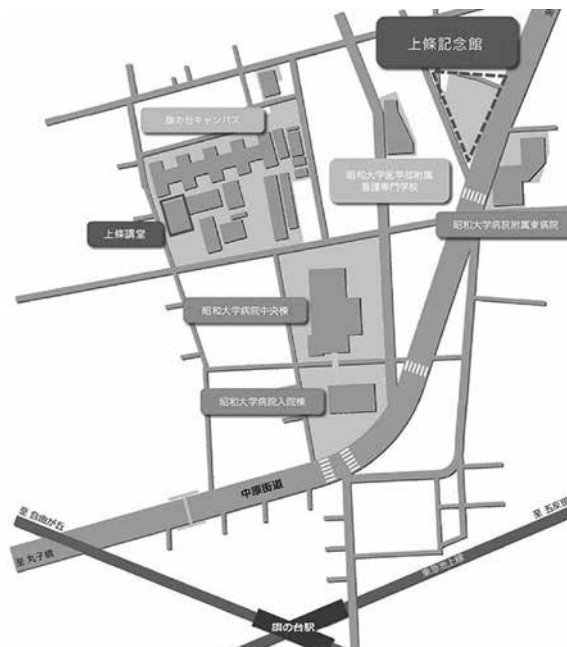
学術年会開催にあたって

檜杖 昌則 (学術年会長)

第29回学術年会では、Microphysiological System (MPS)を用いた創薬研究・医薬品安全性評価の現状と展望を主題として開催いたします。MPSは、細胞を用いる *in vitro* の試験系において、スフェロイドやオルガノイドといった3次元構造を有する細胞系の利用や、外部環境として血流などのシェアストレスといった生理的な環境を与えることにより生体内の状態の再現性をより高め、さらに、細胞間相互作用などの検討も可能であるなど、従来の *in vitro* 試験に比べ、より適切に生理学的な反応を検討することができると考えられています。また、医薬品等の研究開発では、実験動物とヒトとの種差が一つの大きなハードルとして存在していますが、ヒト試料を用いたMPSでの検討はよりヒトを模した環境での薬理作用および毒作用の機序の解明に役立つことが期待されています。このように、MPSを用いた研究は創薬プロセスに大きな変革をもたらすツールとなることが期待され、近年急速に発展してきています。HAB研究機構は創薬研究におけるヒト組織の利用に貢献してきておりますが、組織そのものの利用に加えて、ヒト組織から採取したプライマリー細胞などをMPSで活用することなどによりさらなる創薬研究の革新が期待され、今回の学術年会ではMPSを主題として取り上げました。

学術年会の最初のセッションでは、MPSのこれまでの進展について、総論的な内容で学産官の連携やその中での標準化、レギュラトリー関連の内容も共有し、それに続く第二セッションでは、創薬研究にニーズの高い臓器組織についての大学や公的研究機関等のアカデミアにおけるMPSの最新の研究について、さらに第三セッションでは企業における創薬への活用についての具体的な取り組みやユーザー目線での議論に加え、ビジネスインパクトについても考えたいと思います。そして、最後のセッションでは、各セッションでの議論を踏まえて課題と展望についてパネルディスカッション形式での討論を行います。また、アカデミア、海外の製薬企業の先生方の特別講演も企画しております。なお、3日目には広く一般市民の皆様を対象として、公開シンポジウムを開催する予定です。

本年および昨年の学術年会はコロナ禍のためオンラインでの開催となりましたが、来年の学術年会では、オンサイトで議論を交わすことができることを期待し、組織委員の先生と準備を進めてまいります。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



昭和大学 上條記念館

(東京都品川区旗の台 1-1-20)

東急池上線・大井町線 旗の台駅東口下車 徒歩7分

都心からお越しの場合は

JR 五反田駅より東急池上線 乗換 または
JR 大井町駅より東急大井町線 乗換

<参加登録費>

(要旨集を含む)

HAB 研究機構正会員： 8,000 円

賛助会員： 8,000 円

非会員：13,000 円

学 生： 6,000 円

事前参加申込期限：2022年4月30日

<お問い合わせ・お申込み先>

特定非営利活動法人HAB研究機構

〒272-8513

千葉県市川市菅野 5-11-13 市川総合病院角膜センター内

TEL 047-329-3563 FAX 047-329-3565

E-mail secretariat@hab.or.jp URL <http://www.hab.or.jp>

Non Profit Organization
Human & Animal Bridging Research Organization

第29回HAB研究機構学術年会

Microphysiological System (MPS) を用いた創薬研究・医薬品安全性 評価の現状と展望

First Circular



学術年会長：檜杖 昌則

(ファイザー R&D 合同会社)

学術年会特別委員長：木内 祐二 (昭和大学)

日時：2022年5月19, 20, 21日 (木～土)

会場：昭和大学 上條記念館

協賛： 日本薬物動態学会 日本薬理学会
日本臓器保存生物医学会 日本再生医療学会
化学工学会バイオ部会 日本動物実験代替法学会

後援： 日本毒性学会 日本臨床薬理学会

(順不同・予定を含む)

最新情報は特設サイトで公開予定です。

ホームページからのリンクを是非ご利用下さい。

2021年12月印刷

第 29 回 HAB 研究機構学術年会 – プログラム概要 –

シンポジウム I (1 日目・19 日)

MPS 研究の進展

オーガナイザー：酒井 康行（東京大学大学院）
渡邊 伸明（第一三共株式会社）

金森 敏幸（産業技術総合研究所）
小島 肇（国立医薬品食品衛生研究所）
松永 昌之（BIOSPIRE 株式会社）
Dr. Reyk Horland（TissUse GmbH）
Dr. Lorna Ewart（Emulate）

シンポジウム II (1 日目・19 日)

創薬研究，薬物動態，安全性評価：アカデミアにおける取り組み

オーガナイザー：石田 誠一（崇城大学）
中島 美紀（金沢大学）

加藤 将夫（金沢大学）
松崎 典弥（大阪大学大学院）
松永 民秀（名古屋市立大学大学院）
山崎 大樹（国立医薬品食品衛生研究所）

シンポジウム III (2 日目・20 日)

創薬研究，薬物動態，安全性評価：製薬企業における取り組み

オーガナイザー：平林 英樹（武田薬品工業株式会社）
長坂 泰久（アステラス製薬株式会社）

今岡 知己（第一三共株式会社）
吉田 晋平（塩野義製薬株式会社）
伊藤 涼（小野薬品工業株式会社）

他 演者交渉中

シンポジウム IV (2 日目・20 日)

MPS 研究の今後の展望と課題

オーガナイザー：金森 敏幸（産業技術総合研究所）
月見 泰博（あすか製薬株式会社）

シンポジウム IV では、創薬における臨床試験を最終ゴールに設定し、そこに向けた手段としての MPS の位置づけを動物実験、オルガノイド、ヒト由来組織、といった研究手段の活用についてそれぞれの限界を踏まえつつ議論していく予定です。

なお、シンポジストとして I～III のオーガナイザーが登壇し議論に参加します。

特別講演・招待講演

酒井 康行（東京大学大学院）
Dr. Lindsay Tomlinson（Pfizer Inc.）
Dr. Adrian Roth（F. Hoffmann-La Roche Ltd.）

第 37 回 HAB 市民公開シンポジウム (3 日目・21 日)

新型コロナウイルス感染症との闘い（仮題）

※敬称略

※演者、演題ならびに講演順は変更になる場合がございます

第 29 回 HAB 研究機構学術年会 組織委員

石田 誠一（崇城大学生物生命学部）
梅原 健（大塚製薬株式会社）
金森 敏幸（産業技術総合研究所生命工学領域）
木内 祐二（昭和大学医学部）
楠原 洋之（東京大学大学院薬学系研究科）
酒井 康行（東京大学大学院工学系研究科）
月見 泰博（あすか製薬株式会社）
中島 美紀（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
長坂 泰久（アステラス製薬株式会社）
平林 英樹（武田薬品工業株式会社）
渡邊 伸明（第一三共株式会社）

敬称略・五十音順

ご案内

懇親会

5 月 19 日（木）講演終了後

年会 1 日目講演終了後に、懇親会を開催いたします。是非皆様ご参加ください。

一般講演（ポスターセッション）

別会場にて開催

年会会期中、ポスターセッションを開催いたします。
日頃の研究成果を共有し、議論していただける場をご用意いたします。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

また、発表演題も募集しております。

ランチョンセミナー

5 月 19 日（木）昼休憩時

年会 1 日目の昼食時に、ランチョンセミナーを開催いたします。是非皆様ご参加ください。